

学期	項目 (◎ 学習課題)	学習内容・ 学習活動	指導上の留意点	評価規準の具体例 ①＝知識・技能 ②＝思考・判断・表現 ③＝主体的に学習に取り組む態度
第2部 歴史の大きな流れと時代の移り変わり (計45時間予定)				
<p>第4章 近代(前半) 近代国家の歩みと国際社会 ■章の問い■ 「近代化」による、政治や社会の大きな変化とは何か。</p>	<p><第2部第4章のねらい> ①欧米諸国における産業革命や市民革命、アジア諸国の動きなどを基に、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解させる。 ①開国とその影響、富国強兵・殖産興業政策、文明開化の風潮などを基に、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解させる。 ①自由民権運動、大日本帝国憲法の制定、日清・日露戦争、条約改正などを基に、立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに、我が国の国際的な地位が向上したことを理解させる。 ①我が国の産業革命、この時期の国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展などを基に、我が国で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことを理解させる。 ②工業化の進展と政治や社会の変化、明治政府の諸改革の目的、議会政治や外交の展開、近代化がもたらした文化への影響、経済の変化の政治への影響、戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。 ②近代前半の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現させる。 ③近代前半の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究させる。</p>	<p><第2部第4章の評価規準> ①欧米諸国における産業革命や市民革命、アジア諸国の動きなどを基に、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解している。 ①開国とその影響、富国強兵・殖産興業政策、文明開化の風潮などを基に、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解している。 ①自由民権運動、大日本帝国憲法の制定、日清・日露戦争、条約改正などを基に、立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに、我が国の国際的な地位が向上したことを理解している。 ①我が国の産業革命、この時期の国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展などを基に、我が国で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことを理解している。 ②工業化の進展と政治や社会の変化、明治政府の諸改革の目的、議会政治や外交の展開、近代化がもたらした文化への影響、経済の変化の政治への影響、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ②近代前半の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③近代前半の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p>	<p><「欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動き」を扱うこの単元の評価規準> ①欧米諸国における市民革命や産業革命をもとに、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへの進出したことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。 ②工業化の進展と政治や社会の変化に着目して、近代化の進展により欧米諸国の政治や社会がどのように変化したかを考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③欧米における近代社会の成立について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p>	
<p>第1節 欧米諸国における「近代化」 ◇節の問い◇ 「近代化」の進展で、欧米諸国の政治や社会はどのように変化したのだろうか。 (計4時間計画)</p>	<p><「欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動き」を扱うこの単元のねらい> ○政治体制の変化や人権思想の発達や広がり、現代の政治とのつながりなどに関連づけて、アメリカの独立やフランス革命を取り上げ、政治的な対立と社会の混乱、そこで生じた犠牲などを経て近代民主政治への動きが生まれたことに気付かせる。 ○工業化による社会の変化という観点から、イギリスなどにおける産業革命を取りあげ、資本主義社会が成立したことや労働問題・社会問題が発生したことに気付かせる。 ○産業革命の進展にともなって、欧米諸国が新たな工業製品の市場や工業原料の供給地を求めてアジアへの進出を強めたことを理解させる。</p>			

3年1学期	1 市民革命の始まり ◎イギリスでの革命や、アメリカでの独立運動によって、政治のあり方はどのように変化したのだろうか。	イギリスでの革命や、アメリカの独立戦争によって成立した政治体制とはどのようなものか、資料などから読み取り、表にまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「市民革命」の「市民」とは、王などによって支配される側にいた人々のことを指すことを確認しておく。 ・「国王」「市民」「法」「主権者」「議会」などのキーワードを用いて、「近代化」の意味を説明できるようにさせる。 ・イギリスでのピューリタン革命やアメリカ独立戦争が起こった共通のきっかけとして、税に対する反発があったことに気付かせる。 	①イギリスとアメリカに成立した政治体制を、成立までの経緯をふまえて、表などで適切にまとめ、理解している。 ①君主政治と民主政治の違いを文章や図をもとに読み取り、立憲君主政の特色について理解している。 ②「近代化」とはどのような変化のことか、政治の面から考察し、「法」という言葉を用いて適切に表現している。
3年1学期	2 人権思想からフランス革命へ ◎フランス革命によって、政治や社会はどのように変化したのだろうか。	フランス革命によって、社会はどのように変化したのか、啓蒙思想を示す資料や『人権宣言』などから読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> ・18世紀におけるフランス社会が、三つの身分で構成される社会であったこと、人口の9割以上をしめた第三身分（平民）は、免税特権のある第一身分（聖職者）、第二身分（貴族）を支えるための重税に苦しんでいたことを、風刺画も活用して確認しておく。 	①『人権宣言』で主張されたことを確認したうえで、フランス革命前後の税の負担を表した風刺画を適切に読み取り、社会がどのように変化したのかを理解している。 ②フランス革命がその後のヨーロッパに与えた影響や、18世紀のフランスが当時の日本と同じような身分制社会であり、アメリカの独立からフランス革命に受け継がれた自由・平等の考え方が、明治以後の日本にも大きな影響を与えるようになったことについて考察し、適切に表現している。
3年1学期	3 産業革命と資本主義の成立 ◎産業革命によって、社会はどのように変化したか、また、どのような考え方が生まれたのだろうか。	産業革命によって、社会はどのように変化したか、またどのような考え方が生まれたのか、絵画資料などをもとに読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> ・産業革命によって生まれた工業中心の社会の良い面と課題の両面に気付かせる。 ・資本主義と社会主義の違いを表などでまとめて理解させておき、世界恐慌時や第二次世界大戦後の世界の動きを説明させるときに知識が活用できるようにする。 	①産業革命のときに利用されるようになった蒸気機関によって、生産力や輸送能力が大きく向上し、人と物の動きが活発となり、資本主義の成立や発展を支えていたことを理解している。 ②社会主義の考え方が生まれた理由について、資本主義社会における資本家と労働者の関係に着目して考察し、適切に表現している。
3年1学期	4 欧米諸国の近代国家建設 ◎アメリカ・ドイツ・ロシアでは、それぞれどのように近代国家の建設を進めたのだろうか。	産業革命やフランス革命の影響を受けて、アメリカやドイツ、ロシアではどのような国づくりが行われたか、地図や絵画資料などをもとに読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカでは、領土の拡大とともに、東部と西部を結ぶ鉄道が発達し、工業がめざましく発展していったことに気付かせる。 ・明治維新のころ、ヨーロッパではドイツが統一され、立憲君主政のもとで工業化を進め、世界進出を目指すようになった一方、ロシアではまだ皇帝による専制政治のもとでの近代化が行われていたことに気付かせる。 	①南北戦争期のアメリカ南部と北部の産業の特色の違いを表などにまとめ、お互いが争うようになった理由を読み取って適切に理解している。 ②アメリカ、ドイツ、ロシアで近代国家が建設されるなかで、それぞれどのような課題が残されたか、人種差別や政治の体制などに着目して考察し、適切に表現している。

<p>3年1学期</p>	<p>5 世界進出を目指す欧米諸国</p> <p>◎欧米諸国は、なぜ世界各地に植民地を広げていったのだろうか。</p> <p>◇節の問いを振り返ろう◇ 各地域で「近代化」はどのように展開したのか、イギリス・フランス・アメリカのそれぞれの地域ごとに説明してみよう。</p>	<p>欧米諸国は、どのようにして世界へ進出したいったのか、イギリスとインドなどの関係を事例として、地図や資料から読み取ったり考えたりする。</p> <p>◇市民革命と産業革命による社会の変化、市場や植民地を求めての世界進出に着目して考えさせる。</p>	<p>・地図をもとにして、イギリスがアジア進出を進めるうえで、インドを拠点としていたこと、南下政策をとるロシアとの争いが激しくなっていくこと、日本は両者の勢力がぶつかり合う位置にあったことに気付かせる。</p>	<p>①工業化を進める欧米諸国が世界各地へ進出した理由と、イギリスが「世界の工場」とよばれ、ほかのヨーロッパ諸国と比べて優位にたった理由を理解している。</p> <p>②欧米諸国がつくった経済のしくみや植民地支配が、アジア・アフリカに与えた影響について考察し、当時だけでなく現在まで続く問題にもつながっていることを適切に表現している。</p>
<p>第2節 開国と幕府の終わり</p> <p>◇節の問い◇ 欧米諸国が来航するなかで、人々はどのような対応をしていたのだろうか。</p> <p>(計3時間計画)</p>		<p><「欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動き」を扱うこの単元のねらい></p> <p>○欧米諸国のアジア進出と関連づけて取り扱い、アヘン戦争後に幕府が対外政策を転換して開国したこと、その政治的および社会的な影響を理解させ、それが明治維新の動きを生み出したことに気付かせる。</p>		<p><「欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動き」を扱うこの単元の評価規準></p> <p>①欧米諸国のアジア進出による中国の動き、日本の開国と貿易の開始による政治的、経済的、社会的な影響を理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。</p> <p>②工業化の進展と政治や社会の変化に着目して、欧米諸国の市場や原料供給地を求めたアジアへの進出が、日本の政治や社会に与えた影響を考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動きについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p>
<p>3年1学期</p>	<p>1 日本を取り巻く世界情勢の変化</p> <p>◎「近代化」を進める欧米諸国の来航は、東アジアにどのような影響を与えたのだろうか。</p>	<p>世界情勢の変化は、江戸時代の日本にどのような影響を与えたのか、外国船の来航と幕府の対応、アヘン戦争とその影響などを法令や地図などの資料をもとに考える。</p>	<p>・外国船が来航した背景について、前節で学んだことを復習しておく。</p> <p>・異国船打払令を批判した蘭学者を幕府が処罰していたことに気付かせる。</p> <p>・幕府の命による蝦夷地の調査や高杉晋作による奇兵隊の創設など、外国の侵略に備える動きが広がっていたことに気付かせる。</p>	<p>①植民地を求めてアジアやアフリカなどに進出する欧米諸国の動きが、やがて江戸時代の日本にも及び、幕府が許可しているオランダ以外の国々の船が日本の周辺に現われるようになっても、引き続き外国船を追い払う方針を変えなかったことを理解している。</p> <p>①南京条約で決まったことがらをまとめて、小学校のときに学んだ、日本が開国してアメリカと結んだ条約との共通点に気づき、南京条約の意味を理解している。</p> <p>②異国船打払令から薪水給与令へと幕府の政策が変化した理由について、アヘン戦争の影響をふまえて考察し、適切に表現している。</p>
<p>3年1学期</p>	<p>2 諸藩の改革と幕府の衰退</p> <p>◎飢きんや財政の悪化に対して、諸藩や幕府はどのような改革を行ったのだろうか。</p>	<p>飢きんや財政の悪化に対して、諸藩や幕府は、どのような改革を行ったのか、資料などから読み取り、表などにまとめる。</p>	<p>・当時、身近な地域を支配していた領主は、どのような政治改革を行ったのか、調べさせておき、簡単に説明させる。</p> <p>・新しい生産のしくみや専売制など、藩による財政立て直しの方法に着目させる。</p> <p>・諸藩の改革が、幕末の政治や明治期に日本で近代産業が発展する基盤になったことに気付かせる。</p>	<p>①大塩平八郎は幕府のどのような態度を批判したのか、幕府は大塩平八郎が起こした反乱になぜ大きな衝撃を受けたのかを文章から読み取って理解している。</p> <p>②藩や幕府の改革の内容をふまえ、改革に成功した藩の政策の共通点と幕府の政策が失敗した理由について考察し、適切に表現している。</p>

3年1学期	3 黒船来航の衝撃と開国 ◎ペリーらの来航は、日本にどのような影響を与えたのだろうか。	ペリーらの来航により、日本ではどのような変化が起こったのか、資料などから読み取り、経緯を流れ図にまとめる。	・幕府の威信（権威）が大きく揺らいだきっかけとして、天保の改革の失敗、開国の決定に際し、初めて諸大名や下級の幕臣などに意見を求めたこと、朝廷に報告したこと、大老の井伊直弼が暗殺されたことなどがあることに気付かせる。	①日本とアメリカとの間で結ばれた条約とその内容を表にまとめ、それぞれの課題についても理解している。 ②関税自主権と領事裁判権の意味と日本が抱えた問題点をふまえ、この時期に始まった外国との貿易が日本の経済や社会に与えた影響を考察し、適切に表現している。
3年1学期	4 江戸幕府の滅亡 ◎江戸幕府はどのようにして倒れていったのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ 武士の政権である江戸幕府が倒れた理由について、社会の変化・諸藩の動き・対外関係の三つの面から説明してみよう。	武士による政治は、どのように終わりを迎えたのか、戊辰戦争にいたるまでの経緯を資料などから読み取り、流れ図や年表にまとめる。 ◇工場制手工業、諸藩の改革、アヘン戦争前後から開国にいたるまでの動きと幕府の権威の低下に着目して考えさせる。	・長州藩や薩摩藩の動きだけでなく、幕府が低下した権威や威信をどのようにして回復しようとしたのか、幕府の「近代化」政策とは何かという点にも着目させる。	①倒幕を進めた勢力と、その中心となった人物について、流れ図や年表を用いて適切にまとめ、理解している。 ①長州藩と薩摩藩が攘夷から考えを変えた理由について、両者の藩が共通して経験したことなどをもとに理解している。 ②徳川慶喜が大政奉還をしたねらいに注目し、どのような動きによって幕府が倒れていったのかを考察して、適切に表現している。
第3節 明治政府による「近代化」の始まり ◇節の問い◇ 明治政府はどのような国づくりを行ったのだろうか。 (計2時間計画)		<「明治維新と近代国家の形成」を扱うこの単元のねらい> ○明治維新について、複雑な国際情勢の中で独立を保ち、近代国家を形成していった政府や人々の努力に気付かせる。 ○富国強兵・殖産興業政策の下に新政府が行った、廃藩置県、学制・兵制・税制の改革、身分制度の廃止、領土の画定を取りあげ、学制など今日につながる諸制度がつくられたことや、身分制度の廃止にもかかわらず現実には差別が残ったことに気付かせる。 ○欧米諸国から取り入れた制度や文化の影響で、社会のようすや人々の生活が大きく変化することに気付かせる。		<「明治維新と近代国家の形成」を扱うこの単元の評価規準> ①富国強兵・殖産興業政策、文明開化の風潮などをもとに、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。 ②明治政府の諸改革の目的に着目して、諸改革が政治や文化や人々の生活に与えた影響を考察したり、明治維新について、近世の政治や社会との違いに着目して、近世から近代への転換のようすを考察したりするなど、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③明治維新と近代国家の形成について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
3年1学期	タイムトラベル⑨ 明治時代を眺めてみよう 1880～90年代ごろのある場面	明治時代のある地方都市のようすをえがいた想像図を見て、江戸時代と比べて、どのような点が変わり、どのような共通点があったのかを読み取り、疑問があれば追究すべき課題（生徒自身の「単元を貫く問い」）を設定する。	・「次の場面を探してみよう！」の課題をもとに、近代化政策によって生まれた大きな社会の変化に着目させる。 ・「集会所に参加した多くの人が求めていたことは何か」「生糸はどこへ運ばれるのか」「農村で見られた変化（桑畑の増加）とは何か」「教会をつくったのはだれか」などの追究課題が考えられる。	①小学校で学んだことをふまえて、明治時代の地方都市と江戸時代までの町との違いについて、建築物や人々の役割、子どもの生活の変化などから適切なことごとを読み取っている。 ②学校教育や徴兵制の導入、近代建築、鉄道の開通、製糸工業による生糸の輸出など、近代化の政策によって見られるようになったさまざまな面の変化や人々の服装・住居などについて、江戸時代と明治時代の共通点や相違点を考察し、写真資料などをもとに適切に表現している。 【章の学習を振り返ろう】(84時限)の「タイムトラベルを眺め直そう！」の活動場面で ②想像図にえがかれているさまざまなことごととともに、近代前半の時代の特色を自分の言葉で適切に表現している。

3年1学期	1 新政府による改革 ◎この時期には、どのような政治のしくみや社会の変化があったのだろうか。	明治維新とは、どのような改革・変化だったのか、新政府がどのような国家をめざしたのかを資料などを読み取りながら考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・廃藩置県によって、藩の名称がそのまま県の名称になったところと、それが認められなかったところがあることに気付かせる。 ・近代化を目指す動きと古代の時代の特色との共通点（天皇中心の国づくり）に気付かせる。 	①版籍奉還と廃藩置県の内容とそのねらい、廃藩置県を行うことでなぜ中央集権国家とよべるようになるのかを理解している。 ②新政府はなぜ廃藩置県や古い身分制度の廃止を必要としたのか、江戸時代の幕藩体制との違いに着目して考察し、「欧米諸国」「中央集権」などの語を用いて適切に表現している。
3年1学期	2 富国強兵を目指して ◎日本を欧米諸国に劣らない強い国にするため、どのような政策が行われたのだろうか。	日本を欧米諸国に劣らない強い国にするために、どのような政策が行われたのか、新政府が行った殖産興業政策、兵制・税制の改革を中心に資料などから読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれ基本的な絵画資料や統計資料、さらに地券については実物資料や写真を見せて、具体的に理解できるようにする。 ・徴兵令に反対する人々や地租改正後にも負担が変わらず不満が残った農民がいたことなど、改革は順調に進んでいったわけではないことに気付かせる。 	①「富国」のために行われた政策（殖産興業、地租改正、学制）と、「強兵」（殖産興業、徴兵令、学制）のために行われた政策を表に整理するなど適切にまとめ、理解している。 ②富国強兵の政策（殖産興業、徴兵令、地租改正、学制）の中から一つ選び、その政策が社会に与えた影響について具体的な資料などにもとづいて考察し、適切に表現している。
3年1学期	3 文明開化と新政府の政策 ◎新政府が進めた新しい政策や欧米の文化を、人々はどのように受け止めたのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ 日本の「近代国家」の建設に向けて、明治政府はどのような政策を行ったのか、欧米の近代化の推移を踏まえて説明してみよう。 歴史を探ろう 世界に開かれた港 横浜	新しい政策や欧米の文化は、人々の生活にどのような影響を与えたのか、絵画資料などから読み取ったり考えたりする。 ◇「富国強兵」をスローガンとして実施された諸政策の意味や意義に着目して考えさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・絵画資料をもとにして、文明開化によって人々の生活がどのように変化したか、具体的に考えさせる。 ・都市と農村を比べると、農村では文明開化の文化や生活スタイルがすぐには変化しなかった理由があることに気付かせる。 	①日本に取り入れられた欧米の文化や生活様式を、絵画資料や文章をもとに具体的に理解している。 ②政府の新しい政策のうち、学制、徴兵令、地租改正について、国民から強い抵抗があった理由を考察し、適切に表現している。
第4節 近代国家への歩み ◇節の問い◇ 日本の「近代国家」の建設は、どのようになされたのだろうか。 (計3時間計画)		<「議会政治の始まりと国際社会との関わり」を扱うこの単元のねらい> ○自由民権運動の全国的な広まり、政党の結成、憲法の制定過程とその内容の特徴を取り上げ、大日本帝国憲法の制定によって当時アジアで唯一の立憲制の国家が成立したことをふまえ、立憲制の国家が成立して議会政治が始まったことの歴史上の意義や現代の政治とのつながりに気付かせる。		<「議会政治の始まりと国際社会との関わり」を扱うこの単元の評価規準> ①自由民権運動、大日本帝国憲法の制定をもとに、立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに、日本の国際的な地位が向上したことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。 ②議会政治や政治の展開に着目して、世界との関係や、現代の政治とのつながりを考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③議会政治の始まりについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

3年1学期	1 新たな外交と国境の画定 ◎新政府はどのような外交政策を進めていったのだろうか。	新政府は、どのような外交政策を進めたのか、欧米諸国とアジアに対する方針の違いにも着目しながら、地図や資料などから読み取ったり考えたりする。	・欧米諸国、中国、朝鮮、ロシアとの関係性にそれぞれどのような違いがあるかに注目させ、それがなぜかを考えさせる。 ・西郷隆盛と大久保利通の考え方の違いに気付かせる。	①新政府が1870年代に結んだ条約とその内容について、表などにまとめて整理し、新政府が国境を画定していった理由を近代国家の特徴をふまえて理解している。 ①日本地図の上に明治時代の国境を書き入れて、現在の国境とどこが違っているかを適切に示している。 ②新政府が中国・朝鮮と結んだ条約の違いについて、欧米諸国と日本の関係との共通点にふれながら考察し、「領事裁判権」という語を用いて適切に表現している。
3年1学期	2 沖縄・北海道と「近代化」の波 ◎新政府は沖縄や北海道に対してどのような政策を進めていったのだろうか。 歴史を探ろう 移住と開拓が進む北海道	新政府は沖縄や北海道に対してどのような政策を進めていったのか、地図や資料などから読み取ったり考えたりする。	・琉球が日本領に組み入れられる経緯の中に、新政府による台湾や琉球への軍事的な圧力があつたことに気付かせる。 ・沖縄やアイヌの人々の立場から、新政府の政策の問題点を指摘させる。	①新政府が北海道の本格的な統治と開拓を進めた理由を、具体的な政策の内容とともに理解している。 ②新政府が行った政策によって、琉球とアイヌの人々の生活がどのように変化したかを考察し、「日本国民」などの語を用いて適切に表現している。
3年1学期	3 自由と民権を求めて ◎新政府の政策を批判していた人々は、どのような活動を行ったのだろうか。	人々は意見を政治に反映させるために、どのような活動を展開したのか、地図や地域史の資料などから読み取る。	・植木枝盛や中江兆民によるフランスの人権思想の紹介が、自由民権運動に大きな影響を与えていたことに気付かせる。 ・政府と自由民権運動の対立の結果、国会開設や憲法制定が約束された経緯に気付かせる。	①自由民権運動で要求されたことを読み取り、自由と民権を獲得するためには、どのような準備が必要であつたか（国会開設、政党の活動）を理解している。 ①板垣退助など自由民権運動の活動家たちが、国会開設の過程においてそれぞれどのような行動をとつたのかを読み取り、理解している。 ②藩閥政府と自由民権運動の目標が共通していた（立憲政治を行うこと）にもかかわらず、対立する関係になつた理由（政府は急進的な国会開設を望まなかつた）を考察して、適切に表現している。
3年1学期	4 帝国憲法の成果と課題 ◎大日本帝国憲法はどのような特色があり、その下でどのような国のしくみが作られたのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ なぜ明治政府は、国境を画定し、憲法を作つたのか、欧米の近代国家の建設の過程も踏まえて説明してみよう。	大日本帝国憲法や帝国議会にはどのような特色があるのか、条文を読んだり選挙のようすを調べたりしながら、その特色を考える。 ◇不平等条約の改正を欧米諸国に認めさせるという目標を明治政府がもっていたことをふまえ、近代国家を成立させるためのさまざまな条件に着目して考えさせる。	・主権者教育の観点から、詳細な知識は求めないものの、大日本帝国憲法や帝国議会、選挙が現在の憲法や国会、選挙とどのような点で違っているかにも着目させる。	①大日本帝国憲法における天皇・国民についてのあり方を、条文などから適切に読み取り、理解している。 ①帝国議会や選挙のしくみの主な点（主権が天皇にあること、男性の一部にしか選挙権がなかつたことなど）について、現在との違いを理解している。 ②大日本帝国憲法の制定によって、国民にどのような成果と課題（さまざまな自由が認められ、国民の政治参加も可能になつたが、制限があつたこと）があつたかを考察し、具体的な内容をふまえて適切に表現している。

3年1学期	多面的・多角的に考えてみよう 『三酔人経綸問答』を考察する	1880年代までの世界情勢をふまえて、日本が他国とどのように付き合うべきかを考え、さまざまな主張に対する自分なりの意見を発表する。	・『三酔人経綸問答』に登場する三人の主張を「アジア寄りか欧米寄りか」「武力を放棄するか重視するか」という観点で整理した上で、それぞれの内容と主張の根拠を表にまとめる。 ・三人の主張に対して、当時の視点からか、現在の視点からかを明確にして、自分なりの批判を発表させる。	①資料をもとにして、当時の世界各地の様子をふまえ、ヨーロッパの国々の侵略を受けたい国にするために、日本はどのような手段をとることができるか、それはなぜかを理解している。 ②日本がとるべき外国との関係の主張とその根拠を参考にして、当時の視点に立って、日本がとるべき立場を選択したり新たな主張を考えたりし、根拠を明確にして適切に説明している。
第5節 帝国主義と日本 ◇節の問い◇「近代国家」日本は、世界でどのような動きをしていったのだろうか。 (計4時間計画)		<「議会政治の始まりと国際社会との関わり」を扱うこの単元のねらい> ○国内の社会状況や国際情勢とのかかわりなどの背景をふまえて、欧米諸国と対等の外交関係を樹立するための長年の努力の過程で条約改正が実現したことを理解させる。 ○大陸との関係をふまえて、日清・日露戦争にいたるまでの日本の動き、戦争のあらましと国内外の反応、韓国の植民地化などを取り上げ、日本の国際的地位が向上したことを理解させる。		<「議会政治の始まりと国際社会との関わり」を扱うこの単元の評価規準> ①条約改正、日清・日露戦争などをもとに、日本の国際的地位が向上したことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。 ②外交や戦争の展開に着目して、世界との関係や現代の政治とのつながりを考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③国際社会との関わりについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
3年1学期	1 アジアの列強を目指して ◎明治政府は条約改正に向けて、どのような取り組みを行ったのだろうか。	帝国主義とはどのような動きや考えか、長年の条約改正への努力のねらいとは何か、なぜ条約改正の一部が実現したのかについて、当時の国際関係などをふまえながら、地図や資料から読み取る。	・地図や風刺絵を活用して、イギリスが日本とどのような関係を結ぼうとしたかに気付かせる。 ・欧米諸国との対等な関係を求めるための政策の中には、国民からの批判を受けるようなものもあったことに気付かせる。	①帝国主義とはどのような動きや考えかかを文章から読み取り、理解している。 ②領事裁判権の撤廃に成功した理由について、明治政府の国内での取り組みと世界情勢をふまえて考察し、条約改正に向けての外交努力や世論の高まり、ロシアの南下を警戒するイギリスとの関係をもとにして、適切に表現している。
3年1学期	2 朝鮮をめぐる対立 日清戦争 ◎日本と中国との間でどのような対立があり、その結果はどのように変わったのだろうか。	日本と中国との間でどのような対立があり、戦争の結果、日本と中国はそれぞれどのように変わったのか、風刺絵の資料や地図などを活用しながら流れ図でまとめる。	・地図をもとに日清戦争の主な戦いは朝鮮半島と遼東半島で起こっていたこと、戦争後、欧米列強が清に進出していったことに気付かせる。 ・三国干渉が、日露戦争が起こる背景の一つになっていたことに気付かせる。	①日清戦争開始のきっかけとなったできごと、戦争の結果（下関条約の内容）や三国干渉後の朝鮮の状況までを、流れ図を用いて適切にまとめ、理解している。 ②日清戦争によって、日本・中国・朝鮮のアジアでの立場がどのように変わったのかをさまざまな面から考察し、欧米列強との関係もふまえて適切に表現している。
3年1学期	3 世界が目撃した日露戦争 ◎日本とロシアとの間でどのような対立があり、その結果はどのように変わったのだろうか。	日本とロシアとの間でどのような対立があり、その結果はどのように変わったのか、風刺絵の資料や地図などを活用しながら関係図でまとめる。	・戦争の背景や経過、結果をまとめるときに、日本とロシアだけでなく、イギリスやアメリカ、清や韓国との関係もふくめて考えやすくするため、関係図で示す方法が有効であることを示す。 ・日露戦争後に日本が関税自主権を完全に回復し、条約改正がすべて達成されたことの意味を考えさせる。	①日本とロシアが対立した背景について、「満州」（中国東北部）やイギリスもふくめた関係図を用いて、適切にまとめ、理解している。 ①ポーツマス条約で決まったことによって、日比谷焼き打ち事件などの暴動が起こった理由（賠償金が得られなかったこと）を理解している。 ②日露戦争によって、日本と外国との関係がどのように変わったのかをさまざまな面から考察し、アメリカとロシア、韓国との関係について適切に表現している。

3年1学期	<p>4 塗り替えられたアジアの地図</p> <p>◎日清・日露戦争の後、朝鮮・中国ではどのような変化が見られたのだろうか。</p> <p>◇節の問いを振り返ろう◇ 日清・日露戦争前後の日本の、中国・朝鮮との関わりの推移をまとめ、日本のアジアでの立場はどのように変化したか説明してみよう。</p>	<p>日清・日露戦争後のアジアの人々の意識の変化、韓国や満洲における日本の政策、中華民国の成立の経緯について、資料などから読み取る。</p> <p>◇条約の具体的な内容やアジアの人々からの視点に着目させて、日本の立場の変化を考えさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・韓国をはじめたとしたアジアの人々が日本に対してどのような感情をいだくようになったかについて、資料を読ませて自由に予想を述べさせる。 ・地図帳で長春、旅順、大連、武漢、南京などの都市の位置を地図帳で確認させる。 	<p>①日本と韓国の関係の変化について、日露戦争後から韓国併合とその後の日本の植民地政策までを整理し、流れ図などを用いて適切にまとめ、理解している。</p> <p>①日露戦争後に中国で起こった辛亥革命によって皇帝による政治が終わったことや、アジア初の共和国である中華民国が成立したことを文章から読み取り、理解している。</p> <p>②日本でのアジアでの立場が日清・日露戦争後にどのように変わったのかをさまざまな面から考察し、アジア諸国の立場から考えられること（日本が帝国主義国としての動きを活発にしたこと）にもふれて、適切に表現している。</p>
<p>第6節 アジアの強国の光と影</p> <p>◇節の問い◇「近代化」によって、日本の産業や社会はどのように変化したのだろうか。（計3時間計画）</p>		<p><「近代産業の発達と近代文化の形成」を扱うこの単元のねらい></p> <p>○富国強兵・殖産興業政策の下、製糸業、紡績業や鉄鋼業などの近代産業が日清戦争前後から飛躍的に発展して、資本主義経済の基礎がかたまったこと、都市や農山漁村の生活に大きな変化が生じたことに気付かせる。</p> <p>○近代化遺産を取り上げるなど、身近な地域を例としながら、鉄道網の広がりや工業の発達などによって人々の生活の変化がみられた一方で、労働問題や社会問題が発生したことに気付かせる。</p> <p>○伝統的な文化の上に欧米文化を受容して、日本の近代文化が形成されたことに気付かせる。</p>		<p><「近代産業の発達と近代文化の形成」を扱うこの単元の評価規準></p> <p>①日本の産業革命とこの時期の国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展などをもとに、日本で近代産業が発達し、近代文化が形成されたことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。</p> <p>②近代化がもたらした文化への影響に着目して、産業の発展が国民生活や文化に与えた影響を考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③近代産業の発達と近代文化の形成について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p>
3年1学期	<p>1 近代日本を支えた糸と鉄</p> <p>◎日本の軽工業や重工業は、どのように発展していったのだろうか。</p> <p>歴史を探ろう 「絹の道」と日本の製糸業</p>	<p>日本の軽工業や重工業はどのように発展していったのか、地図やグラフなどの資料から読み取る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「糸で軍艦を買う」というどういう意味かを考えさせる。 ・鉄道と工場の位置との関係に注目させ、教科書p.201の②「日本の製糸業はどのように発展したのかな？」を読ませて、現在と当時の鉄道の主な役割の違い（貨物輸送がさかんだったこと）に気付かせる。 	<p>①近代日本の工業化について、軽工業と重工業に分け、それぞれの工業製品を示しながら、表などで適切にまとめ、理解している。</p> <p>②軽工業と重工業の発展によって、日本の経済と産業はどのように変わったか、貿易上の地位の向上や軍需産業に力が入れたこと、財閥の登場などに着目して考察し、適切に表現している。</p>
3年1学期	<p>2 変わる都市と農村</p> <p>◎工業化の進展は、人々の生活にどのような影響を与えたのだろうか。</p>	<p>工業化が進むなかで、農村や都市での人々の生活はどのように変化したのか、資料などから読み取り、その理由を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の工業化にともなう社会の変化を農村の状況や労働問題をもとに考えさせる。 ・足尾銅山の鉱毒事件を例に、環境問題が起こったことにも気付かせる。 	<p>①農村で小作人になる農民が増えた理由や、海外に移住する人々が増えた理由について、当時の社会的な背景をもとに理解している。</p> <p>①社会問題が起こった背景として労働者の労働条件に関する問題があったことや、社会主義の運動が始まったことを理解している。</p> <p>②工業化の進展によって農村の生活がどのように変化したか、イラストの資料などをもとに「光」と「陰」の両面から考察し、適切に表現している。</p>

3年1学期	<p>3 欧米の影響を受けた近代文化</p> <p>◎明治時代には、どのような特色を持った文化が展開したのだろうか。</p> <p>◇節の問いを振り返ろう◇ 産業革命によって、日本の産業や社会はどのように変化したか、軽工業の発達と農村の変化を例にして説明してみよう。</p>	<p>明治時代になって、人々の生活や文化はどのように変化したのか、文化を生み出した担い手の考えを中心に調べてまとめる。</p> <p>◇歴史を探ろう（「絹の道」と日本の製糸業）を参考に、重要な輸出品であった生糸の生産を農村が支えたり、輸送のために鉄道が敷設されたりしたことに着目して考えさせる。</p>	<p>・新しい日本画を西洋画と比べさせ、絵画の世界でも欧米文化が受け入れられていったことに気付かせる。</p>	<p>①日本の伝統文化や欧米文化に関わった人物に着目し、美術などの発展において、どのような動きがあったかを調べて適切にまとめ、理解している。</p> <p>②学校生活で身につけられる能力や習慣などに着目して、「近代化」のために学校教育が果たした役割を考察し、「国民」「標準語」という語を用いて適切に表現している。</p>
3年1学期	<p>章の学習を振り返ろう</p> <p>近代国家の歩みと国際社会</p> <p>■章の問い■「近代化」による、政治や社会の大きな変化とは何か。</p>	<p>日本の「近代化」を経済や産業、政治や制度、文化や生活、国際社会という4つの観点ごとに評価し、最も重視したい観点を選んでその理由を説明する。近代前半とはどのような時代か、自分の言葉で表現したり、意見交換を行ったりする。</p>	<p>・総合判定をその理由とともに発表し合った後、評価が異なる人との意見交換を重視させ、自分の理由に追加させたり修正させたりする。</p> <p>・近代後半とはどのような時代か、まずは短い言葉で特色を表現させ、歴史的な見方・考え方（時代や年代、推移、比較、相互の関連）を働かせて、そのように表現できる理由を説明させる。</p>	<p>①章の学習を振り返り、日本の近代化を観点ごとに評価し、歴史的な見方・考え方を働かせて、重視する観点を選んで総合判定を行い、効果的にまとめている。</p> <p>②「近代化」を観点ごとに評価する活動などを通して、近代前半の日本と世界を大観し、時代の特色を多面的・多角的に考察し、適切に表現している。</p> <p>③近代の国家づくりについて、現代のあり方と比較するなどして、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p>
<p>第5章 近代(後半) 二度の世界大戦と日本</p> <p>■章の問い■「近代化」が進展した日本で、世論が求めたものは何か。</p>		<p><第2部第5章のねらい></p> <p>①第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動の高まりと国際協調の動き、我が国の国民の政治的自覚の高まりと文化の大衆化などを基に、第一次世界大戦前後の国際情勢及び我が国の動きと、大戦後に国際平和への努力がなされたことを理解させる。</p> <p>①経済の世界的な混乱と社会問題の発生、昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などを基に、軍部の台頭から戦争までの経過と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解させる。</p> <p>②戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。</p> <p>②近代後半の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し表現させる。</p> <p>③近代後半の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究させる。</p>		<p><第2部第5章の評価規準></p> <p>①第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動の高まりと国際協調の動き、我が国の国民の政治的自覚の高まりと文化の大衆化などを基に、第一次世界大戦前後の国際情勢及び我が国の動きと、大戦後に国際平和への努力がなされたことを理解している。</p> <p>①経済の世界的な混乱と社会問題の発生、昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などを基に、軍部の台頭から戦争までの経過と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解している。</p> <p>②戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>②近代後半の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③近代後半の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p>

<p>第1節 第一次世界大戦と民族独立の動き ◇節の問い◇ 第一次世界大戦は世界にどのような変化をもたらしたのだろうか。 (計4時間計画)</p>	<p><「第一次世界大戦前後の国際情勢と大衆の出現」を扱うこの単元のねらい> ○ヨーロッパ諸国間の対立や民族問題を背景として第一次世界大戦が起こったことに気付かせるとともに、日本の参戦、ロシア革命なども取りあげて、世界の動きと日本との関連をふまえて、大戦がその後の国際情勢および日本に大きな影響を及ぼしたことに気付かせる。 ○国際連盟の成立、中国や朝鮮、インドにおける民族運動の高まり、軍縮条約の締結を取り上げ、日本がどのように対応したかを理解させる。</p>	<p><「第一次世界大戦前後の国際情勢と大衆の出現」を扱うこの単元の評価規準> ①第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動の高まりと国際協調の動きをもとに、第一次世界大戦前後の国際情勢および日本の動きと、大戦後に国際平和への努力がなされたことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。 ②世界の動きと日本の関係に着目して、第一次世界大戦による世界の変化や影響を考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③第一次世界大戦前後の国際情勢について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p>	
<p>3年2学期</p> <p>1 第一次世界大戦の始まりと総力戦 ◎第一次世界大戦は、どのような特徴を持った戦争だったのだろうか。</p>	<p>第一次世界大戦は、どのようにして起こり、どのような特徴をもつ戦争だったのか、ヨーロッパの国際関係を図でまとめたり、写真資料などから読み取ったりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・風刺絵をもとにバルカン半島が「ヨーロッパの火薬庫」とよばれていたことに気付かせ、登場している国々を関係図などにまとめさせる。 ・第一次世界大戦がそれまでの戦争とは全く異なる戦争であったこと、大量殺戮兵器や化学兵器が登場したことに気付かせる。 	<p>①戦争に参加した国々が多くの植民地をもっていたことをふまえて、第一次世界大戦が世界規模の総力戦となった理由について理解している。 ①それまでの戦争にはみられなかった第一次世界大戦の特徴を、写真資料などから適切に読み取り、理解している。 ①第一次世界大戦の背景となる、バルカン半島をめぐる国々の対立がどのようなものだったか、図にまとめるなどして理解している。 ②総力戦によって、列強各国の政府が女性や植民地の人々にどのようなことを行ったか（女性の権利を拡大する政策）をふまえて、その影響（女性の地位の向上、戦後の自治が約束されたこと）を考察し、適切に表現している。</p>
<p>3年2学期</p> <p>2 第一次世界大戦の拡大と日本 ◎日本は、第一次世界大戦やロシア革命にどのように関わったのだろうか。</p>	<p>日本は、第一次世界大戦やロシア革命にどのようにかかわったのか、資料などから読み取る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦の勃発により、日本は日英同盟を利用してどのような行動がとれるのか、また、日英同盟を結んでいたイギリスが、日本のどのような行動を警戒していたのかを予想させる。 	<p>①第一次世界大戦中に日本が中国に示した二十一か条の要求の中で、日本が実現させた要求の内容をふまえて、中国での反日運動が本格的に始まったり、欧米列強が日本への不信感を高めたりしたことを理解している。 ②日本が第一次世界大戦に参戦した理由、シベリアに出兵した理由について、イギリスとの関係やロシア革命の影響などをもとに考察し、適切に表現している。</p>
<p>3年2学期</p> <p>3 第一次世界大戦後の欧米諸国 ◎第一次世界大戦は、欧米諸国にどのような変化をもたらしたのだろうか。</p>	<p>第一次世界大戦を経て、国際関係はどのように変化したのか、欧米諸国で起こったことや民主主義の高まりなどに着目して、具体的な動きを読み取る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・民族運動の高まりや国際平和への努力に気付かせるとともに、どのような限界があったかについても考えさせる。 ・資料をもとに、国際連盟の常任理事国になった日本が、国際的な場で初めて人種差別撤廃を提案したことに気付かせる。 	<p>①ベルサイユ条約は戦勝国と敗戦国にとってどのような内容だったか、それぞれの植民地の動きにもふれながら、表などを用いて適切にまとめ、理解している。 ②第一次世界大戦後、欧米諸国の政治にはどのような変化があったか、具体的な例をふまえて考察し、適切に表現している。 ②国際連盟が強い力をもてなかった理由について、アメリカの不参加などをふまえて考察し、適切に表現している。</p>

<p>3年2学期</p>	<p>4 アジアの民族自決と国際協調</p> <p>◎第一次世界大戦後、アジアではどのような運動が起こり、日本や欧米諸国はどのように対応したのだろうか。</p> <p>◇節の問いを振り返ろう◇ 第一次世界大戦を経験した結果、戦争に関わった国々の社会にはどのような変化があったか、説明してみよう。</p>	<p>第一次世界大戦後、アジアではどのような運動が起こり、日本や欧米諸国はどのように対応したのか、朝鮮・中国・インドに着目して、具体的な動きを読み取る。</p> <p>◇戦勝国と敗戦国で起こった変化、それぞれの植民地における異なる変化に着目して考えさせる。</p>	<p>・年表中に示されているワシントン会議やロンドン海軍軍縮会議の結果を見て、国際協調が進められる一方で、海軍力においてイギリスやアメリカが優位な秩序が決められたことに気付かせる。</p>	<p>①朝鮮・中国・インドで起こった運動の内容を表に整理し、それぞれの要求などを適切にまとめ、理解している。</p> <p>①パリ講和会議（ベルサイユ条約）やワシントン会議で中国に関して決められたことについて、資料や文章から読み取って理解している。</p> <p>②1919年に朝鮮・中国・インドで民族運動が起こった背景について、日本やイギリスの動きをふまえて考察し、適切に表現している。</p> <p>②ワシントン会議の結果に日本の軍部が批判的だった理由について、国際協調の具体的な内容をもとに考察し、適切に表現している。</p>
<p>第2節 高まる民主主義の意識</p> <p>◇節の問い◇ なぜ、第一次世界大戦後、民主主義的な考え方が広まったのだろうか。（計3時間計画）</p>		<p><「第一次世界大戦前後の国際情勢と大衆の出現」を扱うこの単元のねらい></p> <p>○国民の政治的自覚が高まり、本格的な政党内閣による政党政治が展開したこと、普通選挙制が実現したこと、米騒動をはじめ、労働運動、農民運動、社会主義運動などの社会運動が幅広く行われるようになったこと、女性の社会的進出が進んだことなどに気付かせる。</p> <p>○大都市の発達や都市に住む人々の生活様式や意識の変化、新聞・雑誌などの普及やラジオ放送の開始などを取り上げ、文化の大衆化が進んだことを理解させる。</p>	<p><「第一次世界大戦前後の国際情勢と大衆の出現」を扱うこの単元の評価規準></p> <p>①国民の政治的自覚の高まりと文化の大衆化をもとに、第一次世界大戦前後の国際情勢および日本の動きと、大戦後に国際平和への努力がなされたことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。</p> <p>②世界の動きとわが国の関係に着目して、第一次世界大戦による日本の社会の変化や影響を考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③第一次世界大戦前後の国際情勢と大衆の出現について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p>	
<p>3年2学期</p>	<p>タイムトラベル⑩</p> <p>大正～昭和初期を眺めてみよう</p> <p>1920～30年代ごろのある場面</p>	<p>大正時代から昭和初期のころに産業が発達してきたある地方都市の駅前ようすをえがいた想像図を見て、明治時代と比べて、どのような点が変わり、どのような共通点があったのかを読み取り、疑問があれば追究すべき課題（生徒自身の「単元を貫く問い」）を設定する。</p>	<p>・「次の場面を探してみよう！」の課題をもとに、明治時代と比べた政治や経済、社会、文化面の変化に着目させ、そのような変化が生まれた理由を考えさせる。</p> <p>・「銀行に集まった人、工場働く人々は、大勢で何を求めているのか」「洋服を着ている女性はいつ頃から増えて始めたのか」「現在まで変わらずに続いているものは何か」などの追究課題が考えられる。</p>	<p>①大正時代から昭和初期と明治時代の駅前ようすの違いについて、建築物や交通機関、人々の役割や政治参加のようすなどから適切なことがらを読み取っている。</p> <p>②男子普通選挙の実現、工業の発達と労働運動の始まり、交通機関の整備、生活習慣の欧米化など、大衆とよばれる人々が現れるようになったことなどについて、明治時代との共通点や相違点を考察し、写真資料などをもとに適切に表現している。</p> <p>【章の学習を振り返ろう】(103時限)の「タイムトラベルを眺め直そう！」の場面で</p> <p>①女性と社会のかかわりの変化を示している場面を適切に読み取っている。</p> <p>②想像図にえがかれているさまざまなことがらとともに、近代後半の時代の特色を自分の言葉で適切に表現している。</p>

3 年 2 学 期	1 護憲運動と政党内閣の成立 ◎第一次世界大戦の影響によって、日本の政治や経済はどのように変化したのだろうか。	第一次世界大戦によって、日本の政治や経済はどのように変化したのか、資料などから読み取ったり考えたりする。	<ul style="list-style-type: none"> ・民主主義を広める動きが世界中に拡大し、日本でも護憲運動によって初めて内閣が倒されたり、その後、初めての本格的な政党内閣が生まれたりしたことに気付かせる。 ・日本では「民主主義」ではなく「民本主義」という唱え方がなされた理由を考えさせる。 	①原内閣の成立にはどのような意味や意義があったのか、それまでの内閣との成立と異なる点に着目し、初めての本格的な政党内閣であったことなどを適切に読み取り、理解している。 ①第一次世界大戦が始まってから日本経済が急成長した理由（大戦景気）とその影響（物価の急上昇）を理解している。 ②護憲運動とはどのような運動か、自由民権運動との違いに着目しながら考察し、適切に表現している。
3 年 2 学 期	2 社会運動の高まりと普通選挙の実現 ◎大正時代に民主主義を求める社会運動はどのような形で展開したのだろうか。	大正時代に、デモクラシーはどのような形で展開したのか、選挙権の拡大やさまざまな社会運動に着目し、資料などをもとにまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・男子普通選挙が実現した意義について、有権者の増加を示す資料などをもとに考えさせる。 ・普通選挙法とともに治安維持法が出され、すぐに改正された内容を確認させて、どのようなねらいが政府にあったのかを考えさせる。 	①大正デモクラシーという言葉が、当時の具体的な運動や政党政治の実現などをもとにして、どのような風潮を意味するのかを理解している。 ②護憲運動、女性、労働者、差別された人々のそれぞれの立場から、大正デモクラシーの時期に展開された社会運動について考察し、どのようなことをなぜ求めていたのか、適切に表現している。
3 年 2 学 期	3 近代都市に現れた大衆文化 ◎大正から昭和初期にかけて、人々の生活や文化はどのように変化したのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ デモクラシーの風潮は、日本の政治や外交、文化にどのような影響を与えたか、説明してみよう。 歴史を探ろう 発展する産業都市 大阪・神戸	大正時代から昭和初期にかけて、人々の生活や文化はどのように変化したのか、社会の変化や文化を生み出した担い手の考えを中心に調べてまとめる。 ◇軍縮、国際協調、政党政治、大衆文化などのキーワードをもとに考えさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の生活に通じる文化の事例に気付かせる。 ・多くの人々が文化や芸術にふれる機会が増えることにつながった社会の変化に着目させる。 	①大正から昭和初期の時期に広まり、現代につながる欧米の文化や習慣について、「衣・食・住・子ども・その他」に分けて、表を用いて適切にまとめ、理解している。 ②都市を中心に大衆文化が広まった理由について、新聞の発行部数が増え、多くの雑誌が出版されてきたことや、学校教育や大正デモクラシーの影響などをふまえて考察し、適切に表現している。
3 年 2 学 期	多面的・多角的に考えてみよう 「母性保護論争」を考察する	女性の社会進出に際して、出産や育児の負担をどのように解決するか、男女の役割や国からの保護、女性や社会のあり方についてのさまざまな主張に対する自分なりの意見を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「母性保護論争」における与謝野晶子、平塚らいてう、山川菊栄の主張を読んで、共感できる点、共感できない点、共感した点を実現するための課題となる点をまとめさせ、どの人物のどのような意見に賛成できるか、大正時代以後の社会の状況を民法の内容などをふまえ、課題として考えたことを明確にして、理由を説明させる。 	①大正末期から女性の社会進出が進む一方で、出産や育児、家事での女性の負担が大きかったことを資料から読み取り、このような女性を国が経済的に保護すべきかどうかについての論争で、女性が自立・独立できる社会のあり方についてさまざまな主張があり、それぞれがどのような根拠にもとづいていたか、資料をもとに理解している。 ②育児や家事における男女の役割、女性の権利と義務、国の役割などの観点から、当時の状況の中で課題となっていたことを考察し、その解決の方法について当時の女性活動家の主張から選択したり、新たな主張を考えたりし、根拠を明確にして適切に説明している。

<p>第3節 戦争に向かう世論 ◇節の問い◇ 世界恐慌後、日本や世界の動きはどのように変化したのだろうか。 (計4時間計画)</p>	<p>＜「第二次世界大戦と人類への惨禍」を扱うこの単元のねらい＞ ○世界恐慌に対する各国の対策と対立の深刻化、日本における経済の混乱と社会不安の広がりを取りあげ、政党政治が行きづまりをみせ、軍部が台頭して大陸での勢力を拡張したこと、国際連盟を脱退した日本がドイツと日独防共協定を結んでアメリカやイギリスと対立を深めたこと、中国との戦争が長期化した経緯を理解させる。</p>	<p>＜「第二次世界大戦と人類への惨禍」を扱うこの単元の評価規準＞ ①経済の世界的な混乱と社会問題の発生、昭和初期から第二次世界大戦が始まるまでの日本の政治・外交の動きなどをもとに、軍部の台頭から戦争までの経過を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。 ②経済の変化の政治への影響、戦争に向かう時期の社会や生活の変化に着目して、二度目の世界大戦が起こった背景を考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③経済の世界的な混乱と社会問題の発生などについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p>
<p>3年2学期 1 世界恐慌と行き詰まる日本 ◎アメリカから始まった世界恐慌は、日本へどのような影響を与えたのだろうか。</p>	<p>アメリカから始まった世界恐慌は世界や日本へどのような影響を与えたのか、資料などから読み取ったり考えたりする。</p>	<p>・景気がよいときと悪いときではどのような違いがあるか、予想を立てさせ、教科書の本文から実際にあった出来事を発表させる。 ・不景気の中で財閥の力が強くなった理由を考えさせる。</p>
<p>3年2学期 2 欧米諸国が選択した道 ◎世界恐慌に対して、欧米諸国はどのように対応したのだろうか。</p>	<p>世界恐慌に対して、欧米諸国はどのように対応したのか、資料などから読み取り、政策の違いや共通点をまとめる。</p>	<p>・計画経済と自由経済の違い、ブロック経済のしくみ、ファシズムの意味などを説明できるようにする。 ・次時への動機づけとして、日本経済の立て直しにはどのような方法があるか、当時の内閣総理大臣に助言するつもりで自分の考えを発表させる。</p>
<p>3年2学期 3 強まる軍部と衰える政党 ◎満州事変以後、政党政治はどのように変化したのだろうか。</p>	<p>満州事変以後、政党政治はどのように変化したのか、軍部が台頭していく経緯に着目して読み取ってまとめる。</p>	<p>・政党政治が途絶えた後、軍事費の割合が増えたことを資料から読み取らせ、軍部が主導権をにぎるようになって、景気が回復していたことも、軍部が国民の支持を集める理由になっていることに気付かせる。</p>
<p>3年2学期 4 日中戦争と総力戦に向かう国民生活 ◎日本は戦争を進めるためにどのような政策を行ったのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ 世界恐慌に各国はどのように対処し、その中で日本はどのような動きをしたのか、説明してみよう。 歴史を探ろう 長野県から見る満州移民</p>	<p>日中戦争はどのようにして始まり、日本は戦争を進めるためにどのような政策を行ったのか、資料などから読み取ってまとめる。 ◇日本、ドイツ、イタリアの共通点やイギリス、フランス、アメリカの共通点に着目し、考えさせる。</p>	<p>・戦争が長期化し、総力戦に向かう中で、国民生活がどのように変化したか、新聞などのメディアや学校はどのような役割を果たしていたのか、などの点に注目させる。 ①戦争を進めるために、政府が国民に対して行った生活に関する政策を読み取り、それぞれのねらいについても適切にまとめ、理解している。 ①日本と中国は、ドイツ・アメリカ・イギリス・ソ連とどのような関係であったかを、関係図を用いて適切にまとめ、理解している。 ①日中戦争の始まりによって日本と中国の国内で起こった動きを文章から読み取り、理解している。 ②中国との戦争が長期化した理由を考察し、中国国民党（国民政府）と中国共産党が抗日という目的で一つにまとまったことや、国民政府がアメリカやイギリスなどの支援を受けて徹底抗戦を続けたことなどにふれながら、適切に表現している。</p>

<p>第4節 第二次世界大戦の惨禍 ◇節の問い◇ なぜ日本は、戦争を拡大していったのだろうか。また、その結果はどのようなものだったのだろうか。 (計5時間計画)</p>	<p><「第二次世界大戦と人類への惨禍」を扱うこの単元のねらい> ○日本がドイツ、イタリアと三国同盟を結び、アメリカ、イギリス、そして終戦直前に参戦したソビエト連邦などとの大戦になったこと、日本が多くの国々、とりわけアジア諸国の人々に対して多大な損害を与えたこと、各地への空襲、沖縄戦、広島・長崎への原子爆弾の投下など、日本の国民も大きな戦禍を受けたことなどから、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解させ、国際協調と国際平和の実現に努めることが大切であることに気付かせる。 ○戦時体制下で国民の生活がどう変わったかについて、身近な地域の事例を取り上げ、平和な生活を築くことの大切さに気付かせる。</p>	<p><「第二次世界大戦と人類への惨禍」を扱うこの単元の評価規準> ①第二次世界大戦中の日本の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、戦時下の国民の生活などをもとに、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。 ②世界の動きと日本との関連に着目して、二度目の世界大戦が起こった理由やその戦争の影響を世界的な視野で考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③第二次世界大戦と人類への惨禍について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p>	
<p>3年2学期 タイムトラベル① 第二次世界大戦期を眺めてみよう 1941年ごろのある場面</p>	<p>第二次世界大戦の時代の阪神地域の都市の様子をえがいた想像図を見て、大正～昭和初期と比べて、どのような点が変わり、どのような共通点があったのかを読み取り、疑問があれば追究すべき課題（生徒自身の「単元を貫く問い」）を設定する。</p>	<p>・「次の場面を探してみよう！」の課題をもとに、戦時体制の政治や経済、社会、文化面の特色に着目させ、そのような変化が生まれた理由を考えさせる。 ・「バスの燃料が木炭であるのはなぜか」「洋服の女性が注意を受けているのはなぜか」「教室に神棚があるのはなぜか」などの追究課題が考えられる。</p>	<p>①第二次世界大戦の時代と大正時代から昭和初期の都市の様子の違いについて、人々の服装や暮らし、学校教育、町の立て看板に書かれた内容などから適切なことがらを読み取っている。 ②工業の発達、軍国主義的な教育やさまざまな社会の統制、新聞が果たした役割など、大正～昭和初期との共通点や相違点を考察し、写真資料などをもとに適切に表現している。 【章の学習を振り返ろう】(103時限)の「タイムトラベルを眺め直そう！」の場面で ①女性と社会のかかわりの変化を示している場面を適切に読み取っている。 ②想像図にえがかれているさまざまなことがらとともに、近代後半の時代の特色を自分の言葉で適切に表現している。</p>
<p>3年2学期 1 第二次世界大戦への道 ◎第二次世界大戦が始まってから、日本は欧米諸国とどのような関係を築こうとしたのだろうか。</p>	<p>第二次世界大戦はどのようにして始まり、日本と欧米諸国の関係はどう変化していったのか、また、日本とアメリカの交渉はどのように展開したのか、資料などから読み取ってまとめる。</p>	<p>・地図帳の基本図などでドイツとロシア（当時はソ連）にはさまれたポーランドとその周辺地域には平原が広がっていることに気付かせる。 ・日本がドイツと同盟や結んだ時期（タイミング）にも着目させる。</p>	<p>①日本が日独伊三国同盟、日ソ中立条約を結んだ目的を、適切に読み取り、理解している。 ①第二次世界大戦が始まって以降の、日本とドイツ・アメリカ・ソ連との関係とその変化を図などにまとめ、理解している。 ②日本とアメリカの対立が深まっていった理由について、戦争を避けるための交渉を続けていながらも、それが決裂する経緯をふまえて考察し、「ファシズム」「民主主義」「資源」という言葉を用いて適切に表現している。</p>
<p>3年2学期 2 太平洋戦争と植民地支配の変化 ◎日本の植民地や占領下の地域では、どのような政策が行われたのだろうか。</p>	<p>日本の植民地や占領下の地域では、どのような政策が行われ、どのような反応があったのか、インドネシアで使われている教科書の資料などから読み取ったり、考えたりする。</p>	<p>・日本軍が進出した最大の範囲を地球儀上で確認し、ヨーロッパでドイツが占領した範囲と比べ、かなりの広さをもっていたことに気付かせる。 ・日本の具体的な植民地政策を確認し、支配される側である外国の人々の立場から、それぞれの課題を考えさせる。</p>	<p>①日本軍が掲げた「大東亜共栄圏」の考え方やアジアの人々のとらえ方を、資料などから適切に読み取り、理解している。 ②占領下の国や地域で抗日運動が起こった理由を、日本が植民地・占領下で行った政策の内容やねらいをふまえて考察し、適切に表現している。</p>

3 年 2 学 期	3 戦局の悪化と戦時下の暮らし ◎戦局の悪化によって、日本の人々の生活はどのように変化したのだろうか。 歴史を探ろう 戦場となった沖縄	戦争はどのように展開し、それによって人々の生活はどのように変化したのか、写真や資料などから読み取る。	・当時の中学生がどのような生活をしてきたか、予想を立てさせたり、小説などで読んで知っていることを発表させたりする。 ・当時の流行語から戦局の変化（悪化していたこと）が読み取れることに気付かせる。	①戦局が悪化したことで行われた政策とその内容を読み取り、理解している。 ①戦局の悪化にともない、学生や小学校に通っていた子どもたちがどのような生活を強いられたか、文章から読み取って理解している。 ①戦場となった沖縄で、多くの住民が犠牲になったさまざまな理由について理解している。 ②多くの国民が戦争の勝利を信じていた理由を、当時の新聞などをもとに考察し、「政府」という言葉を用いて適切に表現している。
3 年 2 学 期	4 ポツダム宣言と日本の敗戦 ◎第二次世界大戦は、どのように終結したのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ 日本が戦争を拡大していった理由と、多くの犠牲者を出してしまった理由を説明してみよう。	太平洋戦争をふくめた第二次世界大戦では、どれだけの犠牲があり、どのような経緯をたどって終わったのか、具体的な事実を整理してまとめる。 ◇日中戦争とアメリカ・イギリスとの戦争のつながり、沖縄戦に関する資料に着目して考えさせる。	・敗戦が告げられたときの人々の反応を予想させた後、日記などに書かれた実際の文章を読ませる。 ・資料から、第二次世界大戦の犠牲者数は、敗戦国である日本やドイツはもちろん、戦勝国であるソ連なども非常に多かったことに気付かせる。	①ヤルタ会談、東京大空襲、沖縄戦、ドイツの降伏、広島・長崎への原爆投下、ソ連参戦、ポツダム宣言受諾など、1945年の世界と日本の動きについて、多くの犠牲者を生んだ出来事を中心に、8月は日付もふくめて表などにまとめ、理解している。 ②第二次世界大戦では、沖縄戦や原爆投下に関する資料などをふまえ、なぜ多くの犠牲者が出てしまったのかを考察し、適切に表現している。
3 年 2 学 期	章の学習を振り返ろう 二度の世界大戦と日本 ■章の問い■「近代化」が進展した日本で、世論が求めたものは何か。	日本の主な出来事に対して、日本の世論はどのようなものだったかを考え、世論が大きく転換した時期を選び、その理由を説明する。 近代後半とはどのような時代か、自分の言葉で表現したり、意見交換を行ったりする。	・世論の形成には、学校教育を受けて育った大衆が大正デモクラシーなどの影響を受けて、政治や社会の動きに高い関心をもつようになったこと、新聞や雑誌を読む人々が増えたことが背景にあることに気付かせる。 ・近代後半とはどのような時代か、まずは短い言葉で特色を表現させ、歴史的な見方・考え方（時代や年代、推移、比較、相互の関連）を働かせて、そのように表現できる理由を説明させる。	①章の学習を振り返り、日本の主な出来事に対する世論を調べ、歴史的な見方・考え方を働かせて世論が大きく転換した時期を選び、効果的にまとめている。 ②世論の変化に着目するなどして近代後半の日本と世界を大観し、時代の特色を多面的・多角的に考察し、適切に表現している。 ③世論が果たす役割について、現代のあり方と比較するなどして、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

<p>第6章 現代 現在に続く日本と世界 ■章の問い■ 現代の日本社会を形づくる画期となった出来事は何か。</p>	<p><第6章のねらい> ①冷戦，我が国の民主化と再建の過程，国際社会への復帰などを基に，第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解させる。 ①高度経済成長，国際社会との関わり，冷戦の終結などを基に，我が国の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し，国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解させる。 ②諸改革の展開と国際社会の変化，政治の展開と国民生活の変化などに着目して，事象を相互に関連付けるなどして，現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現させる。 ②現代の日本と世界を大観して，時代の特色を多面的・多角的に考察し，表現させる。 ②これまでの学習を踏まえ，歴史と私たちとのつながり，現在と未来の日本や世界の在り方について，課題意識をもって多面的・多角的に考察，構想し，表現させる。 ③現代の日本と世界について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究，解決させる。</p>	<p><第6章の評価規準> ①冷戦，我が国の民主化と再建の過程，国際社会への復帰などを基に，第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解している。 ①高度経済成長，国際社会との関わり，冷戦の終結などを基に，我が国の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し，国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解している。 ②諸改革の展開と国際社会の変化，政治の展開と国民生活の変化などに着目して，事象を相互に関連付けるなどして，現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現している。 ②現代の日本と世界を大観して，時代の特色を多面的・多角的に考察し，表現している。 ②これまでの学習を踏まえ，歴史と私たちとのつながり，現在と未来の日本や世界の在り方について，課題意識をもって多面的・多角的に考察，構想し，表現している。 ③現代の日本と世界について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究，解決しようとしている。</p>	
<p>第1節 敗戦から立ち直る日本 ◇節の問い◇ 第二次世界大戦後，日本の改革はどのような目標の下に進められたのだろうか。 (計3時間計画)</p>	<p><「日本の民主化と冷戦下の国際社会」を扱うこの単元のねらい> ○戦後の混乱のなかで，国民の貧しさからの解放の願いや平和と民主主義への期待などを背景に，男女普通選挙の確立や日本国憲法の制定をはじめとして大きな改革が次々に進められ，国民が苦難をのりこえて新しい日本の建設に努力し，現代の日本の骨組みが形成されたことに気付かせる。 ○日本国憲法の基本的原則からその歴史的意義を読み取らせる。 ○戦後の混乱や生活のようす，国民の努力について，身近な地域などの具体的な事例をもとにとらえさせる。 ○冷戦について，国際連合の発足，米ソ両陣営の対立，アジア諸国の独立，朝鮮戦争，その後の平和共存の動きなどを，日本の動きと関連させながら理解させる。</p>	<p><「日本の民主化と冷戦下の国際社会」を扱うこの単元の評価規準> ①日本の民主化と再建の過程，冷戦などをもとに，第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解しているとともに，諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。 ②諸改革の展開と国際社会の変化に着目して，諸改革が日本の社会に及ぼした変化や冷戦体制下の日本と世界とのかかわりについて考察するなど，事象を相互に関連付けるなどして，現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現している。 ③日本の民主化と冷戦下の国際社会について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p>	
<p>3年2学期 タイムトラベル⑫ 高度経済成長期を眺めてみよう 1960～70年代ごろのある場面</p>	<p>新幹線が開通した1960年代のあるまちのようすをえがいた想像図を見て，第二次世界大戦期と比べて，どのような点が変化し，どのような共通点があったのかを読み取る。</p>	<p>・「次の場面を探してみよう！」の課題の他，「子どもたちがしている遊びの名前をすべて言えるか」など，現在との違いにも着目させる。 ・「子どもたちが町で遊べる空き地はいつ頃まであったのか」「住宅地にある工場の排煙で公害は起こらなかったのか」などの追究課題が考えられる。 ・地理的分野や公民的分野との関連を重視して，現在の都市との違いを考えさせてもよい。</p>	<p>①高度経済成長期と第二次世界大戦期の都市の共通点や違いについて，建築物や交通機関，子どもたちのようすや人々の役割などから，適切なことごとを読み取っている。 ②工業の発達，家電製品や自動車の普及，新幹線の開通，女性の役割，子どもたちの遊びなど，第二次世界大戦期との共通点や相違点を考察し，写真資料などをもとに適切に表現している。 【章の学習を振り返ろう】(116時限)の「タイムトラベルを眺め直そう！」の場面で ②想像図にえがかれているさまざまなことごととともに，現代の時代の特色を自分の言葉で適切に表現している。</p>

3年2学期	1 敗戦からの出発 ◎敗戦後、日本人々と社会はどのような状況であったのだろうか。	敗戦後、どのような改革が行われ、またどのような影響が残ったのか、写真資料などから読み取ってまとめる。	・戦争が終わった後でも深刻な食料不足に悩まされた理由を予想させる。 ・戦争が終結しても、北方領土の人々が移住させられたり、シベリアでの抑留生活を強いられたりと、多くの傷あとや深刻な問題が残ったことに気付かせる。	①GHQが日本政府に対し、軍国主義の徹底的な排除と民主化を進めるための政策を指示したことを読み取り、理解している。 ①敗戦が海外にいた人々に与えた影響という点から資料などを読み取り、海外の軍人や民間人の中には、戦争が終わった直後に日本にもどることができなかった人々がいたことなどを理解している。 ①GHQの改革指令を受けて、日本政府がどのようなことを行ったのか、次時の内容もふまえて理解している。 ②「すべての戦後が同時に始まったわけではなかった」という言葉の意味や経緯を考察し、具体的な人々の生活の困難にふれながら、適切に表現している。
3年2学期	2 新時代に求められた憲法 ◎新しい日本をつくるために、どのような改革が行われたのだろうか。	占領下の日本では、どのような改革が行われたのか、資料などから読み取ったり、それらの意義を考えたりする。	・大日本帝国憲法を改正し、日本国憲法が制定されるまでの経緯を読み取らせ、GHQが日本政府に示した憲法草案では、日本の民間団体などの草案も参考にされていたことに気付かせる。	①この時期に進展した日本の民主化政策（財閥解体、農地改革など）の内容とそのねらいについて、資料から読み取れることをふまえて理解している。 ②戦後の日本が目標としていた国づくりについて、日本国憲法にもりこまれた人々の期待をふまえて考察し、適切に表現している。
3年2学期	3 冷たい戦争とその影響 ◎冷戦は、日本や世界各地にどのような影響を与えたのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ 敗戦後、日本の改革はどのような目標の下に進められ、国際社会のなかでどのような立場になったのか、説明しよう。	冷戦は、日本をふくめ、世界各地にどのような影響を与えたのか、朝鮮戦争をおもに取りあげて考えさせる。 ◇GHQの方針と朝鮮戦争後にそれが転換したことに着目して考えさせる。	・第二次世界大戦の終結からわずか5年後、朝鮮半島がふたたび戦場となったことが、戦後の日本の改革でも方針の変更（占領政策の転換）が行われたことに気付かせる。	①冷戦の影響によってドイツや朝鮮が分断され、西ドイツと東ドイツ、韓国と北朝鮮に分かれたことを理解している。 ②日本が冷戦体制に組みこまれた背景を考察し、平和主義の原則の下、非軍事化が進められていた日本で、自衛隊がつくられた経緯にふれながら、適切に表現している。
第2節 世界の多極化と日本の成長 ◇節の問い◇ 復興を遂げた日本は、国際社会でどのような役割を担うようになったのだろうか。 (計5時間計画)		<「日本の経済の発展とグローバル化する世界」を扱うこの単元のねらい> ○日本が独立を回復して国際連合に加盟し、国際社会に復帰するまでの経緯を理解している。 ○日本の産業・経済や科学技術の著しい発展とそれともなう生活の向上や、それらを背景とする世界有数の経済大国への急速な成長、および石油危機が政治や経済に及ぼした影響などに気付かせる。 ○沖縄返還、日中国交正常化などを取りあげ、東アジアとの新たな関係や当時の国際情勢について理解させる。		<「日本の経済の発展とグローバル化する世界」を扱うこの単元の評価規準> ①高度経済成長、国際社会とのかかわりなどをもとに、日本の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し、国際社会において日本の役割が大きくなってきたことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。 ②政治の展開と国民生活の変化に着目して、国民生活への影響と国際平和の実現への努力について考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③日本の経済の発展について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

3 年 2 学 期	1 日本の独立と世界の動き ◎独立を回復した日本は、どのような課題を残しながら国際社会に復帰したのだろうか。 歴史を探ろう 日本の領土画定と近隣諸国	独立を回復した日本は、どのような課題をかかえるようになったのか、条約の内容などを読み取ったり考えたりする。 ・講和の方法として、ソ連などをふくむすべての交戦国と全面講和する道と、講和が可能な西側の国々と単独で講和する道の二つがあったことに気付かせる。 ・日本の国際連合加盟が実現し、国際社会に復帰できたものの、ソ連との間に北方領土問題が残されたことに気付かせる。	①サンフランシスコ平和条約で決まった内容を適切に読み取り、理解している。 ②独立を回復し国際社会に復帰する過程で、日本に残された課題を考察し、適切に表現している。 ③日米安全保障条約の改定をめぐる安保闘争について考察し、賛成と反対、それぞれの意見を、根拠を明確にして適切に表現している。	
3 年 2 学 期	2 冷戦下での日本とアジア ◎アメリカとソ連の対立は、日本を含めた東アジアの国際関係にどのような変化を与えたのだろうか。	ベトナム戦争により、日本をふくめた東アジアの関係はどのように変化したのか、沖縄の復帰や韓国・中国との関係に着目し、資料などから読み取ってまとめる。	・アメリカにおけるベトナム反戦運動や沖縄における復帰運動、基地反対運動の意義を考えさせる。 ・1970年代の出来事を中心に、年表でまとめさせる。	①復帰前と復帰後で沖縄はどのように変化したか、また、変化していないことは何かを具体的なことがらをもとに理解している。 ②日本と韓国・中国との国交正常化が進められた背景と、残された問題点について考察し、適切に表現している。
3 年 2 学 期	3 経済成長による日本の変化 ◎経済の急速な発展は、私たちの生活にどのような影響を与えたのだろうか。	日本はどのような問題をのりこえて、経済成長を進めてきたのか、写真やグラフなどの資料から読み取ったり考えたりする。	・高度経済成長によって国民生活が向上する一方で、公害による深刻な被害や環境破壊、過疎過密の問題が起きたことにも気付かせる。	①経済成長期に現われてきた社会問題として、公害問題や貿易摩擦の問題などがあることを理解している。 ②高度経済成長によって、日本の経済や産業にどのような変化があったかを考察し、適切に表現している。 ③石油危機を経験して、行われるようになった対策（省エネルギー技術の開発、原子力発電）をいくつかあげ、それらの意義について考察し、適切に表現している。
3 年 2 学 期	4 日本の社会と国際関係の変化 ◎日本が経済大国になったことは、日本の社会や国際社会にどのような影響を与えたのだろうか。	日本が経済大国になったことで、どのような影響が日本の社会や国際社会に及んだのか、写真やグラフなどの資料から読み取ったり考えたりする。	・バブル経済が起こってしまった理由を「銀行」「土地」「株」という言葉に着目させて、読み取らせる。 ・「政府を小さくする政策」の意味を考えさせる。	①1980年代に日本国内で行われた具体的な改革の例を、文章から読み取らせる。 ②日本が経済大国となったことで、国際社会に与えた影響にはどのようなものがあったかを考察し、適切に表現している。
3 年 2 学 期	5 大衆化・多様化する戦後の文化 ◎戦後復興期から高度経済成長期にかけて、人々の生活や文化はどのように変化したのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ 独立を回復した日本は、国際社会のなかでの立場を政治的・経済的にどのように変化していったか、説明しよう。	戦後復興期から高度経済成長期にかけて、人々の生活や文化はどのように変化したのか、社会の変化や文化を生み出した担い手の考えを中心に調べてまとめる。 ◇政治については国際連合への加盟や各国との関係などについて、経済については政府開発援助（ODA）の推移を示すグラフのデータなどに着目して、考えさせる。	・戦後復興期から高度経済成長期の変化で、どのようなことが深く印象に残っているかを、身近にいる人々に対して年齢を考慮しながら聞き取り調査をさせて、当時の時代背景との結びつきを考えさせる。	①高度経済成長期の「三種の神器」の名称（電気洗濯機、電気冷蔵庫、白黒テレビ）とその影響（家事の時間短縮と余暇の時間の増加）について、文章やグラフなどから読み取り、理解している。 ②戦後復興期や高度経済成長期を代表する文化人のうち、教科書で紹介されている人物を調べてレポートにまとめ、理解している。 ③戦後復興期と高度経済成長期で、マスメディアはどのように変化したか、映画とテレビの登場などに着目して考察し、適切に表現している。

第3節 これからの日本と世界

◇節の問い◇ 冷戦終結後、日本と世界はどのように変化したのだろうか。
(計2時間計画)

<「日本の経済の発展とグローバル化する世界」を扱うこの単元のねらい>
○世界規模での米ソ両陣営の対立が終わったことやその影響に気付かせ、冷戦終結後の国際協調の平和外交の推進や開発途上国への援助などもふかえ、国際社会において日本の役割が大きくなってきたことを理解させるとともに、公民的分野の学習に向けた課題意識をもたせる。
○冷戦終結後も国際社会には、民族や宗教をめぐる対立、国家を超えた地域統合、地球環境問題とその取り組み、資源やエネルギーをめぐる課題、日本と近隣諸国との間の領土をめぐる問題、日本人拉致問題など、主権や人権、平和などさまざまな課題が存在していること、それらを解決するためのさまざまな人々の努力が重ねられていることに気付かせる。

<「日本の経済の発展とグローバル化する世界」を扱うこの単元の評価規準>
①冷戦の終結をもとに、国際協調の平和外交の推進、開発途上国への援助などもふまえ、国際社会においてわが国の役割が大きくなってきたことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。
②政治の展開と国民生活の変化に着目して、国民生活への影響と国際平和の実現への努力について考察するなど、事象を相互に関連付けるなどして、現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。
③グローバル化する世界について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

3 年 2 学 期	1 グローバル化が進む世界 ◎冷戦の終結後、世界ではどのようなことが進展したのだろうか。	どのようにして冷戦が終わり、その後世界ではどのようなことが起こったか、写真資料などから読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化によってもたらされる良い影響だけでなく、悪影響についても考えさせる。 ・公民的分野の学習に向けた課題意識をもつことができるよう配慮する。 	①冷戦後に起こった主な紛争・戦争について、写真資料などをもとに適切に読み取り、理解している。 ②グローバル化に伴って起こった出来事について、地域統合の動きや地域紛争の激化などをもとに、経済面と国際政治面から考察して、適切に表現している。
3 年 2 学 期	2 激変する日本とアジア ◎冷戦終結後、日本国内の政治・経済やアジア諸国との関係はどのように変化したのだろうか。	1990年代初めや平成の時代の日本では、政治と経済、東アジアとの関係の面でどのような変化が起こったか、写真やグラフの資料から読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> ・「～の終わり」というかたちで表現できることがらを見つけさせ、その意味を読み取らせる。 ・日本と東アジアの国々との間の諸問題（拉致問題など）に対して、関係改善に向けてのさまざまな努力が続けられていることに気付かせる。 	①冷戦後に起こった日本での政治面と経済面の大きな出来事（「55年体制」の終わりやバブル経済の崩壊）を文章から読み取り、それぞれの経緯を適切にまとめ、理解している。 ②財政の赤字が増加する理由について、高齢化が進んでいることに着目して考察し、社会保障費が増大していることなどを適切に表現している。
3 年 2 学 期	3 国際社会におけるこれからの日本 ◎よりよい未来に向けて、私たちは歴史から学んだことを、どのように生かしていくことができるだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ 冷戦終結後には、どのような課題や社会の変化が起こったのか、一つの出来事を選びその原因から説明してみよう。	日本や世界が直面している課題について、歴史から学んだことを生かして、よりよい未来をつくるための取り組みを考え、発表する。 ◇政治、経済、国際関係などの面から、解決すべき大きな課題であると考えられる出来事を選び、「持続可能な社会」の実現を視野に入れて考えさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の変化のスピードが早まっていることについて、情報通信技術や人工知能が果たす役割の大きさに気付かせる。 ・エネルギーの安定供給や経済性、環境への影響や安全性のあり方について、発電の方法ごとにメリットやデメリットがあることに気付かせる。 	①全世界に共通している課題と、日本の他、特定の国や地域が直面している課題について、今まで日本が国際社会のなかで取り組んできたことにもふれながら、表などで適切にまとめ、理解している。 ②直面している課題のうちの一つ（人口問題、環境問題、エネルギーの安定供給の問題など）を選び、それに取り組むためにはどのようにしたらよいか、歴史で学んだことを生かして考察し、適切に表現している。
3 年 2 学 期	章の学習を振り返ろう 現在に続く日本と世界 ■章の問い■ 現代の日本社会を形づくる画期となった出来事は何か。	日本社会を形づくる画期となったと考えられる出来事を取り上げて重要度が高い順に並べ、グループで発表し合い、それぞれの考えを深めさせる。 現代とはどのような時代か、自分の言葉で説明したり、意見交換を行ったりする。	<ul style="list-style-type: none"> ・現代を三つの時期に分け、経済や産業、政治や制度、文化や生活、国際社会の四つの観点から画期を考えさせる。 ・現代とはどのような時代か、まずは短い言葉で特色を表現させ、歴史的な見方・考え方（時代や年代、推移、比較、相互の関連）を働かせて、そのように表現できる理由を説明させる。 	①章の学習を振り返り、日本社会を形づくる画期となったと考えられる出来事を選んで、歴史的な見方・考え方を働かせて重要度が高い順に並べるなど、効果的にまとめている。 ②日本社会を形づくる画期となったと考えられる出来事に着目するなどして、現代の日本と世界を大観し、時代の特色を多面的・多角的に考察し、適切に表現している。 ③現代の日本社会の形成過程をもとに、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
3 年 2 学 期	多面的・多角的に構想する 未来に向けて	社会的な関心からテーマを決め、現代にいたるまでの歴史的な経緯を整理し、さまざまな角度から課題解決への鍵を探って、未来へのメッセージをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的な経緯や解決策については、歴史的な見方・考え方（比較、影響、推移など）を働かせて整理できるようにする。 ・公民的分野の学習へ向けた課題意識をもつことができるようにする。 	②これまでの歴史学習をふまえ、歴史と私たちのつながり、現在と未来の日本や世界のあり方について、適切な課題を設定し、課題意識をもって多面的・多角的に考察、構想し、表現している。